

「あたたかな人間関係づくり」を基盤とした教育活動の推進 ～「自分大好き」「友達大好き」な児童の育成～

高山先生の提案授業から学ぶ ～全ての学級で実践を行うことが大切です！～



6月17日の学習、「基本的な学習規律を中心とした須恵一スタンダード」がしっかりと身についた子ども達を見ることができました。

学習規律や学び方は、「やれ」「守れ」と言っても身に付きません。そこには、必ず教師の意図した指導・支援があります。

高山先生の授業では、学習規律とともに、意欲をもって学習に臨む姿も大変すばらしかったです。静かな雰囲気の中で、黙ってノートに向かう姿。どのような指導支援が有効だったのでしょうか？協議会で出された感想、意見をもとに整理してみました。

○**地道なノート指導が行われています。**ノートに加わる先生の評価は、何よりも子ども達の励みになります。ただし、毎日、全てのノートに指導を行うことは現実的ではありません。教科を決め、定期的に指導を継続して行っていきましょう。私は、定着するまでは（1か月ほど）は毎日ノート指導を行っていましたが、その後は「毎日8冊ずつ」とか「毎週金曜日」など1週間に1回全ての子ども達のノートに目を通すようにしていました。2学期は全ての学級で授業研を行います。教科領域を決め、ノート指導の積み上げを行いきましょう。

○**子どもが考えを創るための豊富な資料が準備されていました。**子どもが学習に向かうためには「そのための教材」が準備されなければなりません。教科書だけで十分と言えるのか、週案作成段階で練っておくことが大切です。私は学年で教科を分担していました。効率よく、学年で協働していくことが継続につながっていきます。

○**自己選択・自己決定の場面がありました。**自己選択・自己決定は子ども達の学習への参画を促します。「問題」や「めあて」を子どもとともに作る授業づくりを目指していきましょう。

○**教師と児童との信頼関係に基づく、共感的な人間関係が構築**されていました。今日にいたるまでどのような取り組みや子どもとのやりとりがあったのか、みんなで学習できる機会が望まれます。